大江医家と華岡医塾・合水堂

世界で初めてマンダラゲを主成分とする「通仙散」を使用して全身麻酔を行い、乳がんの手術に成功した華岡青洲のことは有吉佐和子の小説などで広く世に知られている。 大分県中津市鷹匠町の大江医家史料館には五代目の大江雲澤（１８２２～１８９９年）が華岡塾の大坂分塾（合水堂）で学んだ資料がいろいろ残っていて興味深い。

雲澤は天保１２（１８４１）年、華岡医塾の大坂分塾である合水堂に入門した。合水堂の創設者、華岡良平（鹿城）は寛政８（１７９６）年、１８歳のときに京都に遊学、文学を佐野山陰に、医学を吉益南涯に学んだ。

文化元（１８０４）年、２６歳の時 に、平山の春林軒に戻り、兄の青洲に学びその片腕として塾運営を助けた。文化１３（１８１６）年、３８歳で大坂中之島の 山崎に華岡分塾「合水堂」を開き、患者は門前市をなした。良平の死去後は青洲の娘婿の準平が塾長となって大いに塾を発展させた。 雲澤は準平に学び、その後も華岡家と交流したことが大江家の手紙の存在から判明した。手紙は３通存在している。華岡 準平から雲澤の父、大江玄明あての手紙には隠居を残念に思うという趣旨である。 華岡準平から大江義達（雲澤）あての手紙には年頭のあいさつと鶏一羽のお礼が記されている。 華岡良平（準平の娘婿）から大江雲澤あての手紙には年頭のあいさつと養父準平の死去の知らせが記録されている。 大江医家史料館には細田富田氏の訳で手紙の詳細が展示されているのでぜひ見学していただきたい。

医療法人玄真堂 川嶌整形外科病院 理事長・院長 川嶌眞人